

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	訪問型サービスC事業
------	------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが”未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会”
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 生活支援サービスの提供

現状と課題

【現状】

- ・基本チェックリストで運動機能低下、口腔機能低下、認知機能低下、うつ傾向、閉じこもり傾向の各項目に該当した方を訪問。
- ・要綱並びに実施マニュアルを整備する事で、計画作成プロセスの標準化と業務の質の底上げを図った。

【課題】

- ・多職種（歯科衛生士、栄養士など）による訪問が実施できていない。
- ・介護予防・日常生活支援総合事業ガイドラインに沿った目標値の見直しが必要。

具体的な取組

- ・保健師、歯科衛生士、栄養士など多職種が自宅を訪問し、自宅で継続的に介護予防に取り組むことができるよう必要な相談・指導を実施。

目標（事業内容、指標等）

【年間目標（R3～5年度）】

- 運動機能向上、口腔機能向上、栄養改善等 9件
- 自宅で介護予防に取り組んでいる人の増加

目標の評価方法

■中間見直しあり

退院直後や外出支援困難等の利用者を対象とした、通所型サービスCとの一体的支援を実施する為、年間目標を運動機能向上、口腔機能向上、栄養改善等の9件とした。

■実績評価のみ

● 評価の方法

- ・基本チェックリストによる状況把握。健康観チェックシートによる状況把握。

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度（訪問型サービスC事業）
----	-------------------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種と連携し、要綱並びに実施マニュアルの整備を行った。 ・リハビリ事業所を対象に訪問型サービスCの対応の可否について調査を実施。
自己評価結果	※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価2	<ul style="list-style-type: none"> ・実施マニュアルの整備はできたが、具体的なプログラム内容が作成できておらず、実績なし。
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職のマンパワー不足。 ・自宅でも継続的に介護予防に取り組むことができるよう「通所型Cとの併用」「保健師による訪問」を検討し、専門職から助言をもらいながら、効果的なプログラム内容を実施していく。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	通所型サービスC事業
------	------------

大目標	<p>・地域が目指すべき姿 など</p> <p>横手市に暮らす誰もが 未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会</p>
中目標	<p>・目指すべき姿を実現するための具体的な目標</p> <p>高齢者への地域における支援体制の強化</p>
小目標	<p>・目標達成のための具体的な施策 など</p> <p>生活支援サービスの提供</p>

現状と課題

<p>【現状】・東部（事業所委託2か所）、西部（事業所委託1か所）、南部（事業所委託2か所）で実施。</p> <p>・利用開始時、終了時、利用後6か月経過時に「基本チェックリスト」「タッチパネル式物忘れ相談プログラム(TDAS)」「健康観チェックシート」を実施したところ、運動器、認知機能の維持・向上している方が多く、通所型サービスの効果が検証できた。</p> <p>【課題】・通所型サービスCの利用率の低下。</p> <p>・自宅で介護予防に取り組むことができるよう働きかけが必要である。</p>

具体的な取組

<p>・保健師による訪問、いきいきサロンなどの集いの場での周知活動。</p> <p>・介護支援専門員、民生委員などの関係機関への周知活動。</p>

目標（事業内容、指標等）

<p>【年間目標（R3～5年度）】</p> <p>○利用率70%</p> <p>○自宅で介護予防に取り組んでいる人の増加</p>
--

目標の評価方法

<p>● 時点</p> <p>□中間見直しあり</p> <p>■実績評価のみ</p> <p>● 評価の方法</p> <p>・「基本チェックリスト」「健康観」「タッチパネル式物忘れ相談プログラム（TDAS）」による状況確認、効果検証。</p> <p>・利用率。</p>

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度 (通所型サービスC事業)
----	--------------------

前期 (中間見直し)

実施内容	
自己評価結果	※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策	

後期 (実績評価)

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問、集いの場での普及啓発、介護予防把握事業でのチラシ送付による利用促進を行った。 ・利用開始時、終了時に「タッチパネル」「基本チェックリスト」「健康観チェックシート」を実施し、効果検証を行った。
自己評価結果	※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価3	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度平均利用率 東部：45.8% 西部：113%、南部：45.4% ・利用開始時、終了時の比較 <ul style="list-style-type: none"> タッチパネル：84%が維持・向上 基本チェックリスト：92%が維持・向上 ・自宅で介護予防に取り組んでいる方：66%
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防把握事業で該当した事業対象者全員に通所型Cの勧奨チラシを送付しており、フレイルの状態に合わせた対象者の選定ができていない。 来年度は、介護予防のデザイン(状態像)を作成し、通所型Cの対象者を選定する。 ・自宅で介護予防に継続的に取り組む方が増加するよう訪問型Cとの併用を検討する。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	横手市
------	-----

タイトル	介護予防支援ケアマネジメント事業
------	------------------

大目標	・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが “未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会 “
中目標	・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 いつまでも生活が続けられる地域の支援体制
小目標	・目標達成のための具体的な施策 など 生活支援サービスの提供

現状と課題

【現状】

○介護予防の目的である「高齢者が要介護になることをできる限り防ぐ」「要支援・要介護状態になっても状態がそれ以上に悪化しないようにする」ために、要支援1・2事業対象者の認定者に対して、心身の状況、置かれている環境、その他の状況に応じて、総合事業に位置づけられる通所型サービス、訪問型サービス、その他生活支援サービスを基に、介護予防が包括的かつ効率的に実施されるように支援する。

○介護予防に関心・希望のあるサービス利用者が急増している。また、新規サービス事業所の開設（運動器特化型デイサービス）が利用者増の要因となる。

【課題】

○直営での支援は担当件数に限界があり、新規サービス利用者については居宅介護支援事業所に委託するケースが大半を占め、直営での対応が困難になっている。

○ケアマネジメントの質を維持していくことが課題となる。

具体的な取組

○要支援1・2、事業対象者の認定者に対する介護予防ケアマネジメントの実施
（委託については公正・中立性を確保し、委託先の居宅介護支援事業所を選定）

- ・介護予防支援サービス計画書作成（アセスメント、モニタリング）
- ・給付管理全般（国保連合会）
- ・委託先、居宅介護支援事業所との連携・調整・利用者の状況把握

○自立支援型地域ケア会議の開催（居宅介護支援事業所の介護支援専門員に自立支援の視点や適切なケアマネジメントの意識付け）

○介護予防研修会の開催

（介護予防・重度化防止の周知等）

○介護予防ケアマネジメント指針の策定

目標（事業内容、指標等）
① 自立支援型地域ケア会議開催 R3 年度 各センター一年 3 回 R4 年度 各センター一年 4 回 R5 年度 各センター一年 5 回 ② R3～R5 年度 介護予防研修会の開催 年 1 回
目標の評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ● 時点 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中間見直しあり <input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ ● 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防支援・ケアマネジメント実績の把握 ・介護予防支援サービス計画のチェック機能の強化 ・介護予防ケアマネジメント指針の周知、介護予防研修会の開催

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	横手市
------	-----

年度	令和3年度 (介護予防支援ケアマネジメント事業)
----	--------------------------

前期 (中間見直し)

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期 (実績評価)

実施内容
<p>要支援 1・2、事業対象者と認定された方に対し、介護予防・重度化防止を目的とした介護予防サービスを受けられるよう適切なアセスメントを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立支援型地域ケア会議の開催 : 各センター3回 (コロナのため、1回書面開催) ○地域包括支援センターケアマネ会議の開催 : 6回 ○介護予防研修会の開催 : 1回 (コロナのため、1回書面開催) ○介護予防ケアマネジメント指針策定
自己評価結果
<p>※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること</p>
自己評価 : 4
<p>介護予防が必要になった要支援 1・2、事業対象の方に適切なケアなケアマネジメントを提供し、業務量の大きな中で委託先との調整・給付管理・把握し事業展開してきた。</p>
課題と対応策
<p>居宅介護支援事業所に委託するケースが大半を占める中、委託先調整やケアマネジメント管理の負担が大きく、ケアマネジメントの質を維持していくことが今後の課題となる。</p> <p>「自立支援型地域ケア会議」、「介護予防研修会」を通じて、自立支援の視点や多職種からの助言を踏まえ、介護予防ケアマネジメントのチェック機能を強化する。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	介護予防把握事業
------	----------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが未来への希望を抱き生きていくために家族の絆・地域の絆を深めともに支え合い、助け合う地域社会
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者の自立した生活維持
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 一般介護予防事業の推進

現状と課題

【現状】

○要支援・要介護者を除く65歳から75歳以下の方で奇数年齢の方を対象に「フレイルチェックリスト」を配布し、一人ひとりの生活実態から地域特性および課題を把握している。またご回答いただいた方には、個人アドバイス票を作成し、介護予防のためのアドバイスを実施している。

【課題】

○包括全体でのデータ分析と課題把握ができていない。

具体的な取組

- ・郵送式によるフレイルチェックリスト調査を実施。
- ・地域ごとのデータ分析・課題把握
ハイリスク者を対象に、保健師とケアマネジャーで訪問。

目標（事業内容、指標等）

フレイルチェックリスト配布実施
ハイリスク者へのアウトリーチ

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・調査結果の分析
 - ・介護予防事業対象者の把握と対応。

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	横手市
------	-----

年度	R3 年度 (介護予防把握事業)
----	------------------

前期 (中間見直し)

実施内容
自己評価結果 ※達成度の設定方法 (5 段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策

後期 (実績評価)

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 地域分析を実施、評価軸を統一するなど見やすい報告書を作成 ・ 昨年度の傾向を踏まえた、予防把握事業の研修会を実施する事で、地域課題把握の必要性を共有する事ができた。 ・ 介護予防把握の結果から実態把握のための訪問を保健師、ケアマネジャーと一緒に実施することができた。
自己評価結果 ※達成度の設定方法 (5 段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価 4 <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書については、協議体と共有する事ができた。 ・ アウトリーチを実施する事で、ハイリスクの要因を特定する事ができた。
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての事業対象者へ短期健康アップ教室への勧奨を実施している。 ・ 対象者の状況に合わせた一般介護予防事業の通知等が必要である。 ・ 予防把握訪問から見えてきた健康課題と解決策について検討

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	介護予防普及啓発事業
------	------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが未来への希望を抱き生きていくために家族の絆・地域の絆を深めともに支え合い、助け合う地域社会
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者の自立した生活維持
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 一般介護予防事業の推進

現状と課題

【現状】

- フレイルチェックリスト集計データと実態をもとに介護予防教室の実施。
- いきいきサロン等集いの場における健康教育の実施。

【課題】

- フレイルチェックリスト集計データ等を活用した地域診断結果を基に、地域別に優先課題を明確化し、地域特性に合わせた事業計画・予防教室等の実施が必要。
- いきいきサロンや健康の駅など会場に出向くことができない高齢者への対応。

具体的な取組

- ・全市的アプローチ
よこてかまくら FM を利用し、専門職による介護予防の必要性と予防法について、市民へ周知を図る。
- ・地域特性に応じたアプローチ
フレイルチェックリスト集計結果から、認知機能の維持と心の健康を維持するため生活に欠かせない「運転寿命の延伸」をテーマに東部（山内）南部（醍醐）西部（大森）地域において介護予防教室を実施。
- ・ハイリスクアプローチ
基本チェックリスト結果から口腔機能低下の該当者が多い地域での歯科衛生士による健康講話の実施。

目標（事業内容、指標等）

- 介護予防教室の開催：年 3 回（各センター 1 回）
- フレイル教室の開催：年 3 回（各センター 1 回）
- 出前講座の開催数：年 100 回

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ◇ 各項目の開催回数、参加者数
 - ◇ アンケート調査（教室評価）

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	横手市
------	-----

年度	R3 年度 (介護予防普及啓発事業)
----	--------------------

前期 (中間見直し)

実施内容
自己評価結果 ※達成度の設定方法 (5 段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策

後期 (実績評価)

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・全市アプローチ 6月に「口腔機能低下予防」、9月に「運動機能低下予防」、1月に「低栄養について」3月「高齢者の心の健康」を横手かまくらFMにて放送。 ・地域特性に応じた介護予防教室 最近の総合相談の傾向と介護予防把握結果から「運転寿命の延伸」をテーマに介護予防教室を東部(7人)、西部(12人)、南部センター(22人)ごとに実施した。男性も1割ほど参加し、終了後のアンケートでは、大変良かったと答えた方がほとんどであった。 ・ハイリスクアプローチ 歯科衛生士による講話22か所、フレイル予防や認知症予防について保健師による講話64か所へ実施した。
自己評価結果 ※達成度の設定方法 (5 段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価 4 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルス部門とも連携を図り、「よこてかまくらFM」活用した介護予防講話を実施した。 ・身近なテーマである『運転寿命延伸』としたことで、予定人数を超える参加者となった。 ・出前講座については、昨年コロナ禍で実施できなかった歯科衛生士による講話を、介護予防把握の結果から口腔機能低下に該当が多い地域で開催できた。

課題と対応策

- ・全市アプローチ

放送内容についてヘルス部門の放送内容とすり合わせし、次年度は「高齢者の心の健康づくり」の放送をする。

- ・介護予防教室

参加者の年代が70代後半から80代が多かった。介護予防把握事業対象者の年代への働きかけについて検討が必要。

- ・出前講座について、これまで歯科衛生士による講話と保健師の講話を実施してきた。次年度より包括保健師の講話は内容を統一し実施する。また歯科講話に関しては必要とされる地域のみ実施としていく。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	地域介護予防活動支援事業
------	--------------

大目標	<p>・地域が目指すべき姿 など</p> <p>横手市に暮らす誰もが 未来への希望を抱き生きていくために家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会</p>
中目標	<p>・目指すべき姿を実現するための具体的な目標</p> <p>高齢者の自立した生活の維持</p>
小目標	<p>・目標達成のための具体的な施策 など</p> <p>一般介護予防事業の推進</p>

現状と課題

【現状】

- ・介護予防を学び、高齢者の介護予防を地域で支えるボランティアとして活動を希望する市民に介護予防サポーター養成講座を開催。
- ・介護予防サポーター登録者に対して、介護予防サポーターフォローアップ講座（サポーター研修会）の開催や意見交換会の開催。
- ・介護予防の情報を提供するためサポーター通信の発行。

【課題】

- ・介護予防サポーター活動の把握と活動支援が不十分。

具体的な取組

- ・地域で支えるボランティアの人材を育成するため、活動を希望する市民に介護予防サポーター養成講座を開催。
- ・介護予防サポーター登録者に対して研修会の開催やサポーター通信を発行し介護予防についての情報を共有しながら、活動を支援する。

目標（事業内容、指標等）

- ・介護予防サポーター養成講座：年1回
- ・介護予防サポーターフォローアップ研修：年1回
- ・介護予防サポーター意見交換会：年1回
- ・介護予防サポーター通信の発送 年4回

目標の評価方法

- R3年度4月時点

- 中間見直しあり

- サポーター活動の適切な活動支援を実施するため、介護サポーター通信の発行と介護サポーター意見交換会を実施している。

- 実績評価のみ

- 評価の方法

- ・各講座受講者数。
- ・サポーターの活動支援と実態把握。

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度 (地域介護予防活動支援事業)
----	----------------------

前期 (中間見直し)

実施内容	
自己評価結果	※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策	

後期 (実績評価)

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防サポーター養成講座 (基礎編：参加者15人) (実践編：参加者10人) 新規サポーター登録者6人 ・介護予防サポーターフォローアップ講座 参加者20人 ・サポーター通信の発行 (年4回)
自己評価結果	※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価 3	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防サポーター養成講座は基礎編、実践編に分け講座を開催。 ・介護予防サポーターフォローアップ講座では認知症サポーター養成講座を開催。 ・サポーター通信の発行は介護予防の情報を共有することが出来た。 ・意見交換会がコロナ感染拡大のため中止したため、サポーターの活動状況の把握や活動支援が不十分だった。
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防サポーター養成講座することで、新規に地域でサポーター活動を希望している方の登録。 ・介護予防サポーターフォローアップ講座。 ・サポーター意見交換会の開催し、地域で活動展開できるよう事務局として個々の活動を把握しながら活動を支援していく。 ・サポーター通信を継続することで、介護予防についての情報発信の継続。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	一般介護予防事業評価
------	------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが未来への希望を抱き生きていくために家族の絆・地域の絆を深めともに支え合い、助け合う地域社会
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者の自立した生活維持
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 一般介護予防事業の推進

現状と課題

【現状】

・年度当初に設定した四半期毎に進捗情報の確認、課題の共有を行い、P D C Aサイクルに沿った事業展開となっているか進行管理している。

【課題】

・課題解決に向けた多職種での検討。

具体的な取組

- ・年度当初に設定したスケジュールにそって、各専門部会において事業評価を実施。
- ・専門部会の開催（四半期毎）
- ・運営会議の開催（専門部会での検討内容を報告、必要時に方針の修正等）
- ・プロジェクト部会の開催（必要時）

目標（事業内容、指標等）

・四半期毎（年4回）専門部会にて、P D C Aサイクルに沿った事業評価を実施する。

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法

専門部会の定期開催、検討結果の共有等

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	R3 年度 (一般介護予防事業評価)
----	--------------------

前期 (中間見直し)

実施内容	
自己評価結果	※達成度の設定方法 (5 段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策	

後期 (実績評価)

実施内容	<p>保健師・医療連携部会を毎月開催し、事業のPDCA サイクルをチェックし、進捗管理した。進捗については運営会議等へ報告し、課内共有を図っている。</p> <p>次年度はアウトカム評価の充実を図るため、インセンティブ交付金の評価指標を意識した事業評価を行う。</p>
自己評価結果	※達成度の設定方法 (5 段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価 3	取組の目標がプロセス指標 (回数、参加者数等) のみ設定している事業が多く、取組の効果 (アウトカム指標) を念頭に置いた目標設定が必要である。
課題と対応策	毎月部会を開催し、運営会議等において情報共有を行い、多職種による事業評価を行ってきた。これまで事業管理シートや年間工程表を評価指標として活用してきたが、アウトカム評価が不十分な状況にあった。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	総合相談支援事業
------	----------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など <p>横手市に暮らす誰もが “未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会 “</p>
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 <p>いつまでも生活が続けられる地域の支援体制</p>
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など <p>地域見守り体制の構築</p>

現状と課題

【現状】

・総合相談は三職種が中心となり、地域の関係者とネットワークを構築しながら、必要な支援等を把握し、専門的・継続的な関与や緊急性を判断しつつ、地域での適切な保健、医療、福祉サービス、関係機関や制度の利用に繋いでいる。

【課題】

・高齢者が認知症や精神疾患、知的障害など複合的な疾患を抱えているケースが増加し、医療関係者や障がい福祉関係者との連携を更に強化する必要がある。
 ・在宅介護支援センターの相談支援体制の強化。

具体的な取組

・在宅介護支援センターとの相談支援の連携機能の強化を図るため、圏域単位で連絡会を実施。
 ・地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者の心身の状況や生活の実態、必要な支援等を幅広く把握するとともに、相談活動や関係機関、制度の利用に繋げる支援の実施。

目標（事業内容、指標等）

・在宅介護支援センターとの連携を更に密にし、相談支援の機能強化を図る
 ・民生委員をはじめ、在宅介護支援センターや関係機関との連携を密にするなど、更なる相談支援体制の強化を図る。
 ・認知症相談は、医療連携や認知症初期集中支援チーム等と連携し早期対応、早期治療に繋ぐ。

目標の評価方法

- 令和3年4月時点
 - 中間見直しなし
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・ 地域包括支援センター並びに在宅介護支援センターの相談実績の集計と分析

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度 (総合相談支援事業)
----	------------------

前期 (中間見直し)

実施内容
自己評価結果 ※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策

後期 (実績評価)

実施内容
<p>○R3年度総合相談件数 (新規、継続合計) : 3,137 件 東部 1,902 件 西部 611 件 南部 624 件</p> <p>○R3年度認知症相談件数 : 677 件 (東部 416 件 西部 182 件 南部 79 件)</p> <p>○認知症初期集中支援チームへつないだ件数 (東部 8 件 南部 1 件)</p> <p>○在介支援センターとの連絡会を圏域単位で実施。在宅介護支援センター情報交換会 (東部 2 回、西部 1 回、南部 1 回)</p>
自己評価結果 ※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
<p>自己評価 4</p> <p>総合相談の件数は昨年より大幅に件数が伸びており、特に認知症に関する相談が増加している。医療関係者や居宅支援事業所、民生委員や地域の関係者と連携し解決に向けて取り組むことができている。</p>
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談支援の機能強化のため、在宅介護支援センターと包括支援センターが情報交換を実施したが、総体的に支援困難な相談が増えており、高齢者の割合が増えていくなかで、更なる連携を図り、支援体制を強化していく必要がある。 ・地域住民へ地域包括支援センター、在宅介護支援センターの認知度を高める周知活動がされていない。今後は情報交換会等で周知、PRについて協議していく必要がある。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	権利擁護事業
------	--------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが”未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会”
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 認知症施策の推進

現状と課題

【現状】

- ・認知症高齢者等の増加により、対応困難な事例が増加している。
- ・高齢者虐待防止対応において、国が示しているマニュアルに準じた対応が実施できていない。
- ・関係機関との連携不足。

【課題】

- ・高齢者虐待防止対応マニュアルの改訂と関係機関への周知。

具体的な取組

高齢者虐待・困難事例への対応、消費者被害の防止、成年後見制度の活用等について、権利擁護の視点から支援していく。

- ・高齢者虐待防止対応マニュアルの改訂と関係機関への周知。
- ・三職種、関係機関等との連携により支援を行う。

目標（事業内容、指標等）

【年間目標（R3～5年度）】

- ・高齢者虐待対応研修会 年1回
- ・消費者生活情報発行

目標の評価方法

- 時点
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・目標数値の達成状況
 - ・支援体制の整備状況

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度 (権利擁護事業)
----	----------------

前期 (中間見直し)

実施内容	
自己評価結果	※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策	

後期 (実績評価)

実施内容	<p>○高齢者虐待防止対応マニュアルを令和3年11月1日付で改訂。</p> <p>○権利擁護相談件数 (118件)</p> <p>・成年後見相談 64件 ・虐待相談 37件 ・消費者被害相談 4件 ・DV相談 13件</p> <p>○市内居宅介護支援事業所への消費者被害情報の共有 (22事例を共有)</p>
自己評価結果	※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価4	<p>虐待、成年後見相談に対して三職種、関係機関との連携でほぼ終結に向けて取り組むことができた。</p> <p>虐待防止対応マニュアルについて、予定を早めて完成することができたが、周知のための説明会がコロナ禍のため中止となったことから、今後も継続して周知を図っていきたい。</p>
課題と対応策	<p>虐待防止対応マニュアルは完成したが、関係機関への周知のため説明会等を実施する予定。また、実際にマニュアルに沿って対応したケースがまだ少なく、実践しながら組織内での事例共有等での周知を図る。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	成年後見制度等利用支援事業
------	---------------

大目標	・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが”未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会”
中目標	・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	・目標達成のための具体的な施策 など 認知症施策の推進

現状と課題

【現状】

- ・成年後見制度に関する相談は20件/年を超えており、認知症高齢者等の増加による支援の必要性が高いと考えられる。相談内容により、専門職への相談・親族申立、市長申立へ繋ぎ成年後見制度利用に至っている。
- ・市による報酬等への助成件数に大きな増減はない。
- ・成年後見制度の一般的な認知が進んでいない。

【課題】

- ・成年後見制度の認知が進み報酬等の費用に対する助成件数が増加した場合、助成の額及び件数の上限を定める、あるいは財源を確保することが必要。
- ・成年後見制度の普及啓発等のため、新たな取組が必要。

具体的な取組

- ・定期及び随時の成年後見制度相談を実施。専門職への相談、親族申立、市長申立、費用の助成等の必要な支援に繋げる。
- ・民生児童委員定例会等で、成年後見制度に関する研修会、講座等を開催する。

目標（事業内容、指標等）

【年間目標（R3～5年度）】

- 普及啓発研修・説明会 年2回

の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・目標数値の達成状況

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市（成年後見制度等利用支援事業）
------	-----------------------

年度	令和3年度（成年後見制度等利用支援事業）
----	----------------------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>○成年後見制度等利用支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親族による申立てが困難な場合、必要に応じて市町村長が申立て手続きをとる。 ・申立費用や後見人等への報酬に必要な費用を負担することが困難な方に、その費用の全部または一部を助成する。 <p><令和3年度実績> 市長申立 5件 助成件数 1件</p> <p>○成年後見制度に関する相談</p> <p>相談件数 28件（ケース） 親族申立 0件</p>
自己評価結果	<p>※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること</p> <p>自己評価4</p> <p>市長申立、相談件数は前年度を上回ったが、すべて必要な支援につなげることができた。助成件数については、経済的理由で制度利用を躊躇するようなケースが無いよう、今後とも制度自体の周知とともに利用支援についても積極的に周知するべきと考えられる。</p>
課題と対応策	<p>利用支援事業に関する問い合わせは少なく、より事業の周知を図る必要がある。ただし、周知が進み申請者が増加した際の財源確保が課題と思われる。</p> <p>成年後見制度利用促進基本計画の市町村計画が未策定であり、策定に向けた対応を取る必要がある。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	市民後見推進事業
------	----------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが”未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会”
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 認知症施策の推進

現状と課題

【現状】

- ・R2 年度、家庭裁判所からの市民後見人推薦依頼及び受任件数が 1 件。『市民後見人候補者名簿』に登録されている 29 人中、活動中の市民後見人は 5 人となっている。
- ・専門職による定期相談会の開催等で、制度の周知を図っている。
- ・市民後見人候補者名簿登録者数及び活動中の人数から、受任件数が増加した場合でも対応が可能な状況である。

【課題】

- ・専門職の負担増、親族後見人の減少から市民後見人の需要は高まってくるのが考えられ（最高裁判所「成年後見関係事件の概況」より）、制度の周知、普及啓発を図りながら、継続した市民後見人の養成が必要である。

具体的な取組

- ・市民後見人養成研修の開催
- ・市民後見人活動支援
- ・家庭裁判所への候補者推薦
- ・成年後見制度支援周知啓発活動

目標（事業内容、指標等）

【年間目標（R3～5 年度）】

- ・市民後見人養成研修 修了者数 10 人
- ・市民後見人フォローアップ研修 25 人
- ・市民後見人等候補者名簿登録者数 30 人
- ・市民後見人活動実人数 5 人
- ・普及啓発研修、説明会 2 回

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・ 目標数値の達成状況

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度（市民後見推進事業）
----	-----------------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 ※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容		
<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・運営検討委員会開催 2回 ・新規名簿登録者 6名 ・名簿登録者数 30名（年度末時点） ・フォローアップ研修 参加者数 延べ 18名 ※第3回はコロナ感染拡大により中止 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・定期相談会 2回（2件） ※第3回は希望者無く開催中止 ・随時相談 28件（ケース） ・市長申立：5件 親族申立：0件 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営検討委員会開催 2回 ・新規名簿登録者 6名 ・名簿登録者数 30名（年度末時点） ・フォローアップ研修 参加者数 延べ 18名 ※第3回はコロナ感染拡大により中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期相談会 2回（2件） ※第3回は希望者無く開催中止 ・随時相談 28件（ケース） ・市長申立：5件 親族申立：0件
<ul style="list-style-type: none"> ・運営検討委員会開催 2回 ・新規名簿登録者 6名 ・名簿登録者数 30名（年度末時点） ・フォローアップ研修 参加者数 延べ 18名 ※第3回はコロナ感染拡大により中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期相談会 2回（2件） ※第3回は希望者無く開催中止 ・随時相談 28件（ケース） ・市長申立：5件 親族申立：0件 	
自己評価結果 ※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること		
自己評価4 コロナ禍が続いているが、感染状況に配慮したカリキュラム変更、会場設営等の対応により、養成研修を実施。名簿登録者への意向確認も行い、名簿の整理を行った。 相談件数及び市長申立件数は増加傾向だが、適切な支援につなげることができている。		
課題と対応策 市民後見人の受任件数は少ない（令和3年度0件）ため、名簿登録者数、名簿からの辞退者数、名簿登録予定者数などの状況を確認しながら、各年度の養成研修の開催可否を検討していく必要がある。 また、各研修の開催については感染状況への対応は当然ながら、第二期成年後見制度利用促進基本計画によるカリキュラムの改訂の動向についても、注視していく必要がある。		

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	包括的・継続的ケアマネジメント支援事業
------	---------------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが“未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会 “
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 地域包括支援センターの機能強化

現状と課題

【現状】

- ・個々の介護支援専門員が抱える相談・対応ケースが困難化している中、対応に行き詰まり相談に見える件数が多くなっており内容も深刻化している。
- ・関係機関との連携・協働による長期継続対応も多い。

【課題】

- ・介護支援専門員に対して、連携できる関係機関や社会資源の情報が不足している。
- ・地域・福祉・医療のさらなる連携体制の構築。

具体的な取組

【取組の対象者、参加者など】

- ・居宅介護支援専門員・在宅介護支援センター職員
- ・地域包括支援センター職員

【取組の内容】

- ・ケアマネ支援相談に対応し、助言指導、一緒に解決を図る。
- ・隔月で開催している支援困難型地域ケア会議の開催時、困難事例を検討する中で参加者相互の情報交換、包括支援センター職員からの助言等を行う。
- ・東部、西部、南部での自立支援型地域ケア会議開催時、各居宅介護支援事業所の介護支援専門員が会議を見学し、介護予防推進への理解を深める。
- ・圏域ごとに在宅介護支援センターとの情報交換会を開催し、各地域で対応している対応ケースの情報交換や総合相談時に一緒に対応していくための連携を図る。
- ・地域包括支援センター内部研修として「法テラス秋田」のミニ勉強会を11月開催に開催する。

目標（事業内容、指標等）			
	R3 年度	R4 年度	R5 年度
・ 自立支援型地域ケア会議（3 地域）	年 9 回	年 12 回	年 15 回
・ 圏域レベル地域ケア会議（3 地域）	年 6 回	年 3 回	年 3 回
・ 介護支援専門員に対する研修会の開催、情報交換会	年 3 回【R3～R5 年度】		
・ 地域包括支援センター内部研修開催			
目標の評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> ● 時点 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中間見直しあり <input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ ● 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種地域ケア会議の開催実績・記録 ・ 支援困難ケースの助言・指導実績・記録 ・ 研修実施記録 			

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度（包括的・継続的ケアマネジメント支援事業）
----	----------------------------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ支援相談件数（R3.4.1～R4.3.31現在）3センター合わせて98件（相談票より述べ件数）に対応し、助言指導、一緒に解決を図る。 ・隔月で開催している支援困難型地域ケア会議の開催時、困難事例を検討する中で参加者相互の情報交換、包括支援センター職員からの助言等を行う。 ・東部、西部、南部での自立支援型地域ケア会議開催時、各居宅介護支援事業所の介護支援専門員が会議を見学し、介護予防推進への理解を深める。 ・圏域ごとに在宅介護支援センターとの情報交換会を開催し、各地域で対応している対応ケースの情報交換や総合相談時に一緒に対応していくための連携を図る。 ・地域包括支援センター内部研修として「法テラス秋田」のミニ勉強会を11月開催に開催する。
自己評価結果
※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価4
<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議（困難型・圏域型・自立支援型等）の開催や総合相談をとおして、多職種間での情報交換や困難ケースへの助言等が実施できた。それぞれの地域でケース検討をする事でケアマネジメントへの理解を深め、日頃の自分達の業務見直しに繋がったものもあった。 ・圏域ごとに在宅介護支援センターとの情報交換会を開催し、各地域で対応している対応ケースの情報交換や総合相談時に一緒に対応していくための連携を図った。 ・地域包括支援センター内部研修として「法テラス秋田」のミニ勉強会を11月に開催し包括職員20人の参加があり、地域包括支援センター相談対応等の機能強化を図った。

課題と対応策

- ・これまでの会議見学終了後に回収していたアセスメントシート等をケアマネジャーの勉強のために個人情報に充分配慮した上で配布をする等の検討が必要。
- ・対応困難型ケア会議で事例検討した内容について、各事業所へ会議録等で情報提供をする。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	認知症高齢者見守り事業
------	-------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが 未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 認知症施策の推進・地域見守り体制の構築

現状と課題

【現状】

- ・認知症サポーター養成講座を小学校、事業所、各種団体等に実施。
- ・徘徊見守り講座は各地域で実施し、地域の見守り体制の構築をすすめる。
- ・見守りネットワーク構築の推進

【課題】

- ・あんしん見守りシールや、利用登録者を発見した場合の対応について地域住民への周知。

具体的な取組

- ・地域における認知症高齢者の見守り体制の構築を目的とし、認知症に関する広報・啓発活動の実施。
- ・見守りネットワーク事業協力事業所を募り見守りネットワークへの参加呼びかけを実施。
- ・あんしん見守りシールの市民への周知と対象者へ交付。

目標（事業内容、指標等）

- ・認知症サポーター養成講座の開催：受講者数 一般 500 人 小中学校 200 人
- ・徘徊見守り講座（見守り体制構築に向けた研修）の開催：8 地域局各 1 か所
- ・認知症サポーターフォローアップ研修の開催：年 1 回
- ・見守りネットワーク情報交換会の開催：年 1 回
- ・あんしん見守りシールの交付：新規登録者数 10 人

目標の評価方法

- 時点

- 中間見直しあり

- 実績評価のみ

- 評価の方法

施策の展開状況（整備状況、利用状況、運営状況）など

- ・ 目標数値の達成状況

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度 (認知症高齢者見守り事業)
----	---------------------

前期 (中間見直し)

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期 (実績評価)

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座：一般 23 か所 (受講者 381 人) 小学校 4 校 (受講者 196 人) ・徘徊見守り講座：8 地域各 1 か所 (受講者 153 人) ・見守りネットワーク事業協力事業所数：46 事業所 ・あんしん見守りシール登録者数：18 人
自己評価結果
※達成度の設定方法 (5 段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価 3
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大の影響を受けながらも、認知症サポーター養成講座受講者数は増加。 ・認知症サポーター養成講座フォローアップ研修会がコロナ感染拡大のため開催できなかった。 ・徘徊見守り講座では、グループワークを取り入れたことで参加者が自分で出来る地域の見守りを考えてもらう機会となった。
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での認知症サポーター養成講座の実施校を増やすため、横手市の現状 (認知症等徘徊高齢者情報提供の急増、認知症に関わる相談件数の増加) を校長会で周知し、児童・生徒に認知症の理解や地域の見守りについて考える機会をいただけるよう依頼する。 ・見守りネットワーク事業所で認知症サポーター養成講座を受講したことがない事業所に対し講座受講をすすめる。 ・徘徊見守り講座では地域の見守り体制の構築を目指し、グループワークを取り入れる。 ・あんしん見守りシールの利用登録者を発見した際の対応の仕方について周知する。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	横手市
------	-----

タイトル	介護予防支援事業
------	----------

大目標	<p>・地域が目指すべき姿 など</p> <p>横手市に暮らす誰もが 未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会</p>
中目標	<p>・目指すべき姿を実現するための具体的な目標</p> <p>高齢者への地域における支援体制の強化</p>
小目標	<p>・目標達成のための具体的な施策 など</p> <p>生活支援サービスの提供</p>

現状と課題

【現状】

要支援1・2で、介護予防支援に位置づけられるサービスだけを利用する方に対して、心身の状況、置かれている環境、対象者自らの選択に基づいて、事業が効率的に実施されるよう援助している。

また、自立支援型地域ケア会議を通し、介護支援専門員に対し自立支援への意識付けや、多職種（医療・介護）との連携の機会や助言を参考に、効率的なケアマネジメント事業を展開しケアマネジメント能力の向上を目指している。

要支援認定者や介護予防支援サービス利用者も緩やかに増加している。特に福用具貸与サービスの利用が増えている。

【課題】

介護予防支援の利用者も増えており、居宅介護支援事業所に委託するケースが大半となっている。委託先の調整やケアマネジメント管理の負担が大きく、ケアマネジメントの質を維持していくことが今後の課題となる。

具体的な取組

（取り組みの対象者、取り組みの内容）

○要支援1・2の認定者に対する介護予防支援事業の実施

（委託については公正・中立性を確保し、委託先の居宅介護支援事業所を選定）

- ・介護予防支援サービス計画書作成（アセスメント、S計画書作成、モニタリング他）
- ・給付管理全般（国保連合会）
- ・委託先、居宅介護支援事業所との連携・調整・情報把握

○自立支援型地域ケア会議の開催

（居宅介護支援事業所の介護支援専門員に自立支援の視点や適切なケアマネジメントの意識付け）

目標（事業内容、指標等）
<p>③ 自立支援型地域ケア会議開催 R3 年度 各センター一年 3 回 R4 年度 各センター一年 4 回 R5 年度 各センター一年 5 回</p> <p>④ R3～R5 年度 介護予防研修会の開催 年 1 回</p>
目標の評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ● 時点 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中間見直しあり <input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ ● 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防支援・ケアマネジメント実績の把握 ・介護予防ケアマネジメント指針の周知、介護予防研修会の開催

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	横手市
------	-----

年度	令和3年度（介護予防支援事業）
----	-----------------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<p>要支援 1、2 の認定された方に対し、介護予防・重度化防止を目的とした介護予防サービスを受けられるよう適切なアセスメントを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立支援型地域ケア会議の開催：各センター3回（コロナのため、1回は書面開催） ○地域包括支援センターケアマネ会議の開催：6回 ○介護予防研修会の開催：1回（コロナのため、書面開催） ○介護予防ケアマネジメント指針策定
自己評価結果
<p>※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること</p> <p>自己評価：4</p> <p>介護予防が必要になった要支援1・2の利用者に適切な介護予防サービス（介護予防給付）を提供し、公正中立に委託先の調整や介護予防・重度化防止に向け事業展開してきた。</p>
課題と対応策
<p>委託先の調整やケアマネジメント管理の負担が大きく、ケアマネジメントの質を維持していくことが今後の課題となる。引き続き、「自立支援型地域ケア会議」、「介護予防研修会」の開催を継続し、介護支援専門員に自立支援の視点や多職種からの助言を踏まえ、ケアマネジメント資質向上に努める。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	介護相談員派遣事業
------	-----------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが 未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 介護保険事業の円滑な運営
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 介護サービス利用・苦情等相談窓口の充実

現状と課題

【現状】

- ・この事業は、6名の介護相談員（内ボランティア4人）が介護サービス利用者の相談に応じることで不安や不満の解消を図るとともに、事業所におけるサービスの質的向上を目指すことを目的として実施している。一定の研修を修了した者を介護相談員として、事業所に派遣している。
- ・R3年度より「有料老人ホーム」「サービス付き高齢者向け住宅」を訪問し、事業説明を実施。受入可能事業所10箇所へ介護相談員を派遣している。

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染状況悪化に伴い、受入事業所数は減少傾向にある。
- ・アンケート調査より、家族等への事業周知が必要

具体的な取組

- ・実績報告書発行
- ・事業所アンケートの実施
- ・事業所への介護相談だより発行 年5回
- ・ボランティア及び職員研修 年2回

目標（事業内容、指標等）

	R3年度	R4年度	R5年度
・派遣事業所	50 箇所	52 箇所	54 箇所

【年間目標（R3～5年度）】

- ・アンケート調査 年1回

目標の評価方法

- R3年4月時点

- 中間見直しあり

- 介護相談員派遣事業の一部改正を受け、市内の有料老人ホーム等に対し、事業説明を実施。新規受入可能事業所は10箇所増（市内20事業所へ説明実施）

- 実績評価のみ

- 評価の方法

事業所に対する、介護サービスに関わる資質の向上及びサービス利用者の権利擁護に関するアンケート・ヒヤリング等の実施

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	横手市
------	-----

年度	令和3年度 (介護相談員派遣事業)
----	-------------------

前期 (中間見直し)

自己評価結果
※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策

後期 (実績評価)

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修による介護相談員の資質向上 2回/年 ・事業所への介護相談だより発行年5回 ・R2年度実績報告書作成 (相談ケース実績報告書を作成し、施設にフィードバックする) ・R3アンケート調査実施 (アンケート調査を実施し、事業の効果を検証する) ・有料老人ホーム並びに特定施設入所者生活介護施設(サービス付き高齢者住宅)への介護相談員受入意向調査時実施
自己評価結果
※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価 4
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果より、事業所が開放的になったは昨年度より3ポイントアップの59.5%、施設サービスの適正化や質の向上、改善につながったと思うは74.3%と評価は高い ・有料老人ホーム等の制度について相談員に対し、内部研修会を実施する事で、資質向上を図った。 ・市内有料老人ホーム等の10事業所に対し、相談員派遣事業を説明し、事業受入が可能になった。

課題と対応策

- ・コロナ感染症はオミクロン株等の新たなウイルス変異により、市中感染が県内において年明けより急増したため、面会等制限により訪問は困難となっている。
- ・ICT 機器（Zoom 等）を活用したオンラインによる相談活動も視野に事業継続を図る【訪問先との連携、施設職員の手間・利用者の固定等・本心が話せない等課題】

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	在宅医療介護・連携推進事業
------	---------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが 未来への希望を抱き生きていくために家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 医療と介護の連携推進

現状と課題

【現状】

○高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療や介護等のサービスが一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を進めている。在宅医療介護連携推進事業ア〜クの8項目を実施。

【課題】

- 在宅医療介護に関する相談窓口の周知。
- 人生会議を含む看取りのあり方についての理解と促進。

具体的な取組

【地域住民】

- ・在宅医療介護普及講座と出前講座の実施。（市医師会と連携）
- ・在宅医療に関する相談窓口の周知。（出前講座や市ホームページの利用）

【専門職】

- ・相談支援…関係機関との連携調整と情報共有。相談窓口の周知。
- ・医療、介護関係者への研修…職種別研修会、多職種連携研修会の開催。（医師会と共催）。
- ・地域の医療・介護資源の情報整理…在宅医療・福祉・介護連携ガイドの情報更新。

目標（事業内容、指標等）

【年間目標（R3～5年度）】

- ・地域住民への普及啓発講座 25回 500人
- ・医療介護関係者への研修会 9回 400人

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・ 目標値の達成状況。
 - ・ 在宅医療介護連携推進事業 8 項目の実施状況を PDCA にて評価。
 - ・ 各種講座や研修会で実施するアンケート調査の結果分析。
 - ・ 専門職等への相談実績

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度 (在宅医療介護・連携推進事業)
----	-----------------------

前期 (中間見直し)

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期 (実績評価)

実施内容
<p>【地域住民】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療介護普及講座 (市医師会と連携) …8回 参加者 203人 ・在宅医療、人生会議を含むテーマで実施 ○出前講座の実施…15回 参加者 172人 ○在宅医療に関する相談窓口の周知。(出前講座や市ホームページの利用) <p>【専門職】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進…在宅医療推進協議会の開催 2回 ○地域の医療・介護資源の情報整理…在宅医療・福祉・介護連携ガイドの情報更新 ○専門職への相談支援…実人数 78人 延人数 95人 ○相談窓口の周知…研修会や市ホームページの利用 ○医療、介護関係者への研修 <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携研修会 (全体) …1回 210人 (医師会と共催で動画配信にて) ・職種別研修会…看護職 2回 32人 (対面式)・CM 1回 69人 (Zoom開催)
自己評価結果
<p>※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己評価 3 ・コロナ禍の状況での事業実施であったが、感染症対策等を徹底し工夫しながら事業を遂行した。

課題と対応策

- 多職種連携推進のため、情報共有ツール（ナラティブブック秋田）の活用と運用の取組を進める。→医師会と共に専門職への普及啓発
- 地域住民への在宅医療・介護連携推進のため、認知症施策や人生会議を含む看取りに関する取組も強化していく。
- 専門職への相談支援→認知症や精神疾患、感染症対策等、相談内容の課題解決に向けた支援
- 地域ケア会議等、他の地域支援事業との連携を図りながら事業に取り組んでいく。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	認知症総合支援事業
------	-----------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが 未来への希望を抱き生きていくために家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 認知症施策の推進

現状と課題

【現状】

○認知症の人やその家族が住みやすいまちをつくっていくためには、地域の理解の促進が不可欠となるため、認知症地域支援推進員の配置や認知症初期集中支援チームを立ち上げ活動展開している。

○認知症に関する広報誌での特集記事掲載（市報）などを通じて広く市民に対し、認知症に対する正しい知識の普及に努めている。

【課題】

○認知症に対する理解を深め、地域全体で認知症本人や家族を見守り、支えていくために普及啓発活動の推進が必要である。

○認知症本人や家族が支援を求めやすい環境の整備。

○認知症相談窓口の周知徹底（高齢と福祉に関するアンケート結果より、相談窓口を把握している人は3割と低い結果であった。）

具体的な取組

○認知症に関する広報・啓発活動の推進

○早期発見・早期ケア体制の構築…認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員の連携強化

○認知症の人や家族介護者への支援…認知症カフェの拡充

○相談窓口の周知徹底…市ホームページへの掲載、認知症ケアパスの更新

目標（事業内容、指標等）			
	R3 年度	R4 年度	R5 年度
・ 認知症初期集中支援チームによる支援	6 件	8 件	10 件
【年間目標（R3～5 年度）】			
・ 認知症カフェ設置	2 か所/年		
・ 認知症ケアパス等の普及啓発講座	20 回/年		
・ 認知症地域支援推進員連絡会の開催	3 回/年		
目標の評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> ● 時点 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中間見直しあり <input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ ● 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症カフェの設置数と目標数の達成状況。 ・ 認知症の相談件数 ・ 認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チームの取組内容を記載。実施するなかでアウトカム、アウトプット、目標の数値化を行う。 			

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
------	--------

年度	令和3年度 (認知症総合支援事業)
----	-------------------

前期 (中間見直し)

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期 (実績評価)

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ○認知症に関する広報・啓発活動の推進…市報8月号へ認知症特集を掲載 ○早期発見・早期ケア体制の構築…認知症初期集中支援チーム 支援件数8件 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援推進員や認知症疾患医療センター等の有機的な連携→医療や介護サービス等への繋ぎ ○認知症の人や家族介護者への支援…認知症カフェ新規設置2カ所 ○認知症の相談件数…529件 ○相談窓口の周知徹底…市ホームページ・市報掲載、出前講座等での紹介 ○認知症ケアパスの更新と普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・ケアパスの普及啓発…11回 ・認知症ケアパスの更新作業…R4年4月全戸配にて完了 ○認知症地域支援推進連絡会…2回 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大にて1回中止とするも、認知症カフェ立ち上げ等、推進員との打合せは5～6回実施した。
自己評価結果
<p>※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること</p>
自己評価4
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援事業実績8件、認知症カフェ新規設置2カ所、目標値は達成。 ・相談窓口の周知については市報掲載や市ホームページにて実施。相談件数も前年度を大きく上回った。 ・認知症ケアパスは情報更新作業を実施し全戸配布。

課題と対応策

- ・認知症初期集中支援事業は、困難事例が増えており今後も早期対応につなげるため、関係機関と連携しながら取組を継続していく。また、市民や関係者へチームの周知を行い、スムーズにチームに繋げる体制づくりに努める。
- ・認知症に関する知識や理解、対応についての啓発は十分とは言えないため、普及啓発活動は継続していく。
- ・認知症地域支援推進員を中心とした、本人や家族に対する相談体制の充実を図る。
- ・コロナ禍でも継続可能な認知症カフェの運営に努め、プログラムの検討などカフェの拡充に努める。認知症を介護する家族や本人からの相談を目的とした開催も検討していく。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	地域ケア会議推進事業
------	------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが “未来への希望を抱き生きていくために 家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会 “
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 地域ケア会議の推進

現状と課題

【現状】

当市の地域ケア会議では、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けることができるよう、国で求める様々な機能をもった地域ケア会議とするため、支援困難型地域ケア会議を継続しつつ、自立支援型地域ケア会議、圏域ケア会議を開催している。また、地域のネットワーク構築、ケアマネジメント支援、地域課題の把握や資源開発に取り組んでいる。

【課題】

困難型地域ケア会議、自立支援型地域ケア会議、圏域地域ケア会議の開催により「認知症」が地域課題として明らかになった。会議で既存の地域資源の活用や認知症予防、認知症の学びの場等の意見が寄せられたが、全市推進会議の開催実施に至っていない状況にある。

具体的な取組

- ・困難型地域ケア会議、自立支援型地域ケア会議、圏域会議、推進会議の開催
- ・各ケア会議は、多職種協働による事例検討を行い、地域のネットワーク構築、ケアマネジメント支援、地域課題の把握に向け意思統一を図り、地域づくり、資源開発について検討、政策形成につなげていく。

目標（事業内容、指標等）

地域ケア会議の開催

令和3年度	令和4年度	令和5年度
自立支援型会議 年9回	自立支援型会議 年12回	自立支援型会議 年15回
圏域会議 年3回	圏域会議 年3回	圏域会議 年3回
推進会議 年1回	推進会議 年1回	推進会議 年1回

目標の評価方法

- 令和3年4月時点
 - 中間見直しあり
 - 圏域会議目標回数6回から3回に変更
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・ 各種地域ケア会議の開催実績
 - ・ 地域課題の抽出、社会資源の活用及び発掘の状況

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	秋田県横手市
年度	令和3年度 (地域ケア会議推進事業)

前期 (中間見直し)

実施内容
自己評価結果 ※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策

後期 (実績評価)

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援困難型地域ケア会議 44回・自立支援型地域ケア会議 9回 (コロナ感染拡大により3回を書面開催としている) ・ 地域協議体が作成した社会資源一覧を地域ケア会議の関係者、市内居宅へ提供すると共に市のホームページでも紹介 ・ 圏域会議：「認知症」について3圏域で開催 ・ 2月末、R3年度困難事例の地域課題について検討予定であったがコロナ感染拡大により中止。 ・ 地域ケア推進会議要領整備 ・ 包括運営協議会にて地域ケア推進会議開催 ・ 横手市地域ケア会議運営方針策定
自己評価結果 ※達成度の設定方法 (5段階評価、○・△・×など)は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価4 <ul style="list-style-type: none"> ・ 困難型、自立支援型地域ケア会議は、高齢者の自立支援に向けたケアマネジメントへの意識づけ、地域課題の発見、多職種や関係者のネットワークが以前のケア会議よりも参加者の意識が向上している。 ・ 圏域型地域ケア会議で「認知症」をテーマに課題解決に向け、多職種や民生員、生活支援コーディネーターなどで協議し、そこでの意見を更に集約し、医療連携推進担当と地域課題の解決に向けて取り組む方向性を決定している。

課題と対応策

- ・地域課題や今後の取り組みを明らかにし横手市協議体、地域ケア推進会議へ報告、包括内の事業間連携を更に強化していく。
- ・多職種協働による地域包括ネットワーク構築のため、地域ケア会議運営方針を関係者で共有し会議を通じて地域づくり、資源開発につなげていく。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	秋田県横手市
------	--------

タイトル	地域リハビリテーション活動支援事業
------	-------------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など 横手市に暮らす誰もが 未来への希望を抱き生きていくために家族の絆・地域の絆を深め ともに支え合い、助け合う地域社会
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 高齢者への地域における支援体制の強化
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など 一般介護予防の推進

現状と課題

【現状】 R2. 10月から5事業者へ委託し、通いの場や介護事業所へのリハ専門職を派遣し、地域における介護予防への取り組みを推進している。
 【課題】 リハ専門職のマンパワー不足により、協力事業者の負担が大きい。

具体的な取組

(取組の対象者、参加者など)
 ・地域住民が主体となり運営している通いの場の参加者
 ・リハビリ専門職が配置されていないが、利用者の自立支援に取り組んでいる介護サービス事業所
 (取組の内容)
 ・通いの場：自主的に活動する通いの場へリハビリ専門職を派遣し、健康づくりや介護予防に役立つ助言等を行う。
 ・リハ専門職不在の介護サービス事業所：利用者の自立支援・重度化防止に向けた介護技術の習得を目的に、事業所へリハ職を派遣し研修会を実施する。

目標（事業内容、指標等）

協力事業者数 5事業者
 利用団体数 年10団体（健康の駅型、いきいきサロン型）

目標の評価方法

- 時点

- 中間見直しあり

- 実績評価のみ

- 評価の方法

施策の展開状況（整備状況、利用状況、運営状況）など

- ・ 事業実績に応じて評価

参加者への影響など

- ・ 介護予防に取り組む動機付け（事後アンケート）
- ・ 自身の健康課題への気づきと行動変容（個別リハ評価）
- ・ 研修会受講後の介護事業所職員の意識の変化（事後アンケート）

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	横手市（地域リハビリテーション活動支援事業）
------	------------------------

年度	令和3年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロン型：7か所（参加者延 251人） （事後アンケート） 講座で習得したことを自宅で継続しているか（動機付け）について「腰や膝を楽にする体操を行っている」が39人（55.7%）と最も高く、次いで「脳トレを行っている」が16人（22.8%）であった。 健康の駅型：8か所（参加者延 153人） （個別リハ評価） 3回のリハ職介入の中で、行動変容につながっているか口頭で確認している。 リハ職との意見交換会：年2回（うち1回はon-line形式で、協力事業者以外も参加）
自己評価結果	※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価 3	通いの場の支援は目標値を上回ることができたが、リハ職不在の介護サービス事業所へ職員研修会の打診を行っていない。また、健康の駅型の参加者へのアンケート調査ができていない。
課題と対応策	協力事業者のみならず、医療機関や市内事業所に所属するリハ職が広く参加できるようにon-line形式による意見交換会、研修会を開催する。また、リハ職不在の介護サービス事業所へリハ職派遣の意向調査を実施し、数か所での研修会開催を計画する。